

国語科・学力向上・指導力向上

「書く力」を高めるとともに、基礎・基本の定着を図り、学力向上をめざす 学校の取り組み

大阪市立島屋小学校 下川路 深志

1 研究テーマの設定理由

《「書く力」を高めるための指導法の工夫》という「研究主題」で、子どもたちの「書く力」に焦点を当てて、2年間研究に取り組んできた。

同時に、《基礎・基本の定着を図り、学力向上をめざす。》という「努力主題」を独自に設定し、子どもの学力を向上させることができるよう、基礎・基本の指導の徹底を図るとともに、若手教員を中心とした教員全体の指導力を向上させることができるよう、取り組みを工夫してきた。

2 「書く力」を高める取り組みについて

これまでの研究で、子どもたちの「話す力」や「聞く力」、「話し合い」についての実践を重ね、力を高めることができた。昨年度からは、《「書く力」を高めるための指導法の工夫》という研究主題を設定し、研究を進めてきた。

そこで、「話す」「聞く」「読む」ことを含めた総合的な言語活動である、「書く」ことに焦点を当てることで、それまでの実践を発展させ、言語活動のさらなる充実が図られると考えた。同時に、「しんだん」や「全国学力・学習状況調査」などの結果から、国語科の「書く力」について課題が大きく、指導の必要性もあった。

(1) 研究主題にせまる取り組み

① 国語科の「書く力」についての指導法を研究する。

- ・各学年の「書く力」についての単元の指導法の研究、系統性の整理
- ・「学習指導要領 国語科 B書くこと」についての内容の理解
- ・「しんだん」「全国学力・学習状況調査」の問題の分析
- ・研究授業、研究協議会などを通しての指導法の研究

(各学年1回、計7回の研究授業と研究協議会を行い、研究主題にせまる。)

② 国語科を中心とし、各教科での指導などを通じて「書く力」を高めることを意識して指導を継続する。

- ・学年・個人の研究テーマの設定
- ・大阪市教育センターの「学び続ける教員サポート事業」との連携
→「校内公開授業」(全員授業)での「書く力」も意識した授業

3 基礎・基本の定着を図り、学力向上をめざす学校の取り組みについて

研究主題と同時に、本校の国語科、算数科の学力の実態から、学力の向上が早急な課題となるため、数年前から学校独自に、《基礎・基本の定着を図り、学力向上をめざす。》という「努力主題」を設定した。

(1) 努力主題にせまる取り組み

- 学力向上のための指導法を研究する。
- 基礎・基本の指導の徹底を図る。
- 学力向上をめざし、全教員が指導力を向上させる。
- 本校独自の学力向上の取り組みを工夫・継続して行う。

(2) 取り組みの例

- ・「朝の学習タイム」(火：読書、木：計算、金：漢字)

- ・「放課後しまやタイム」（2～6年）
- ・「島屋漢字検定」
- ・「漢ド選手権」 など

4 指導力向上のための取り組みについて

（1）観点

- 「研究主題」と「努力主題」にせまるための研究の推進と授業改革，指導法改善
- 教員全体の指導力の向上
- 若手教員の育成

（2）取り組みの工夫

① 全員の研究テーマの設定

本年度の「研究主題」と「努力主題」をもとに「学年の研究テーマ」を設定し，それをもとに「個人の研究テーマ」を設定する。

② 「校内研究授業」「研究協議会」，「校内公開授業」

- ◎ 「校内研究授業」（各学年＋特別支援学級の計7回）
- ◎ 「校内公開授業」（全員授業）

③ 『学年研修会』・・・学年での打ち合わせなどを『学年研修会』として位置づけ，互いの指導力を向上させることを意識した上で，指導についての情報交換をし，学年内での研究を活性化させる。学年のメンバーの特性を生かし，学年内で自主的・積極的に『学年研究授業』や研修を進める。

④ 『自主公開授業』・・・テーマ，提案，特色のある授業や得意な授業などを自主的に公開し，積極的に互いの指導力を高め合う。「全員公開授業（全員授業）」も積極的に活用する。

⑤ 『オープン・クラス』・・・校内で通常の授業や指導を見学，参観ができるような環境を作り，互いの指導力向上を図る。

⑥ 『養成プロジェクト』・・・経験年数の浅い，いわゆる「若手教員」を積極的に育成する。適宜研修会を実施したり，若手教員どうしが情報を交換したりできる機会を設定する。「学び続ける教員サポート事業」を活用し，校内の新任研担当と連携して行う。（新任教員の参観授業，実習生参観授業なども活用する。

⑦ 自主研修会・・・校内の教職員が講師となって研修会を行う。

- 伝達講習会・・・校外での研修内容などを校内で伝達する。

5 研究の成果と課題

研究主題にせまる2年間の取り組みで多くの成果を得ることができ，今年度は適切で効果的な指導法について，さらに研究を深めることができた。各教科・領域等の指導，さまざまな活動や行事を通じて「書く力」を意識して指導を継続してきたことも，言語活動を豊かにし，子どもたちの力を高める重要な要素であったと考える。また，「努力主題」のもと，本校独自の工夫を継続してきたことで，教員全体，特に若手教員の意識や指導力が高まったと感じられる。

「全国学力・学習状況調査」「しんだん」の数値にも成果が現れた。

今後も取り組みを継続させるとともに，国語科をはじめとして，様々な教科などの中で，さらに言語活動を充実させていきたい。